

市原市認知症対策連絡協議会 第11回総会、第32回例会 議事録

日時 令和5年4月20日(木) 18時30分～20時

場所 Zoomを用いたウェブ会議

司会 飯吉裕樹(なんな苑)

参加者 32名

第11回 総会

1. 開会あいさつ

市原市認知症対策連絡協議会 会長 小沢義典医師(ろうさい病院)

コロナの感染もまったく無くなったわけではなく、まだまだ油断はならないがろうさい病院は面会が可能となっています。

今年度は皆で集まることができないかと思っています。

皆様や地域にとって有益な会になることを祈っています。

2. 令和4年度活動報告

令和4年度までに計画していたプロジェクトを以下に示す。

- A 若年性認知症対策 プロジェクト
- B 認知症サポーター プロジェクト
- C 在宅介護者を支えるマニュアル作成 プロジェクト
- D 服薬支援ネットワーク プロジェクト
- E 新規プロジェクト検討 プロジェクト
- F フェスタ プロジェクト
- G 「RUN 伴+いちほら」 プロジェクト
- H ステッカー プロジェクト

上記のプロジェクトのうち、A～Dまでは今年度も活動は行われていない。

また、Hステッカー プロジェクトは消失ということで役員会にて決定された。

2.1 E 新規プロジェクト検討

プロジェクトの活動報告は安田先生、青木市（傾聴の会ひだまり）によって行われた。

安田先生より活動報告

- 覚えてる会（個別の認知症相談会） 毎回約 20 人×11 回＝ 220 人
- カフェもの忘れ対処教室 毎回約 0.5 人×11 回＝ 6 人
- カフェPCスマホ相談会 毎回約 3 人×11 回＝ 33 人

- On-line 介護者相談会 毎回 6 人×6 回＝ 36 人
- On-line 当事者相談会 毎回 4 人×50 回＝ 200 人
- On-line 介護者居酒屋 毎回 7 人×6 回＝ 42 人

- テレビ電話支援会 当事者 4 人+ボラ 4 人×月 2 回×12 回＝ 192 人

- もの忘れ対処塾 by Zoom （もの忘れサポーター養成講座）2 月＝ 15 人

延べ人数 計 744 人

青木氏より活動報告

- Zoom を使った傾聴活動を行っている。
- 2004 年創設
- 2015 年から 安田先生と協力して傾聴ボランティア活動を行っている。
- 2020 年 1 月～ 新型コロナの影響で高齢者施設に立ち入れなくなった。
- その後スカイプを使った傾聴ボランティアをはじめめる。
- 2020 年 7 月～ ディケアセンターひまわりとネットを通じて傾聴することに成功。
- 現在は 3 施設とテレビ電話で支援を行っている。
- 周辺の施設や公園の様子をスカイプを使って中継することも行っている。
- 最近は個人の方々ともスカイプを使った傾聴を行っている。
- ミモザ（株）より「ミモザ市原」と「傾聴の会ひだまり」が 2022 年度優秀イノベーション賞を受賞した。
- カリフォルニア州立大学が興味をスカイプの傾聴活動に興味をもって来て連絡を取ってきた。大学生に講義を行った。
- コロナ禍によって閉鎖するボランティア団体が数多くある。
- 今年度は直接訪問する傾聴ぼらんていを行いたいと考えている。

2.2 F フェスタ プロジェクト

- 令和4年11月13日(日)にショッピングモールユニモにて「いちほら認知症あんしんフェスタ」を行った。
- 参加人数はボランティア 51名、来場者 131名、合計182名となる。
- コロナ禍において集まりすぎる過ぎる心配をしていたが、概ね良い参加人数であったと判断した。

2.3 G RUN伴+いちほら プロジェクト

- 令和4年12月28日(水) be Orange 助成金に応募したが今年度も落選。
- 令和5年1月27日(金) RUN伴実行委員会(全国)による説明会(Web.)に福田氏、飯吉で参加した。
- 令和5年度 RUN伴+いちほら 役員
 - 実行委員長 飯吉 裕樹(介護老人保健施設 なんな苑)
 - 広報 小山 史樹(特別養護老人ホーム 清流苑)
 - 会計 宮崎 倫子(市原市地域包括支援センターこくぶんじ台)
- 令和5年4月28日(金) RUN伴情報交換会(Web.)
福田氏、小山氏、飯吉で参加予定。

3. 会計報告

別紙 参照。

4. 監査報告

会計監査より誤りがないとの報告を受け、出席者全員から承認を受けた。

5. 市原市認知症対策連絡協議会 令和5年度役員

会長	小沢 義典	(千葉ろうさい病院)
副会長	小出 貢二	(市原市医師会、こいで脳神経外科クリニック)
副会長	永野 伸一	(市原市歯科医師会、永野歯科医院)
副会長	細川 清史	(ファーコスだいした薬局)
事務局長	飯吉 裕樹	(介護老人保健施設 なんな苑)
会計	宮崎 倫子	(地域包括支援センター こくぶんじ台)
幹事	石川 道子	(介護センター なのはな)
	大戸 優子	(中核地域生活支援センター いちはら福祉ネット)
	小原 徹	(市原市役所 保健福祉部 共生社会推進課)
	福田 卓美	(特別養護老人ホーム グランモア和光苑)
	野田 真麻	(市原鶴岡病院)
	袴田 龍一	(市原市広域支援センター、白銀整形外科病院)
	村山 愛佳	(市原市地域包括支援センター たつみ)
	安田 清	(斎賀医院)
監査	岩本 明子	(千葉ろうさい病院)

以上の者を総会にて承認多数と判断し、令和5年度の市原市認知症対策連絡協議会の役員とする。

6. 市原市認知症対策連絡協議会 令和5年度 活動計画

- 令和4年度はあまり多くのプロジェクト活動を行うことはできなかった。
- その中で「いちはら認知症あんしんフェスタ」は開催でき、概ね良い反応を頂いた。
- 令和5年度の活動はどうするか。

以上の問いかけには5月以降のコロナ対策解除後の世間の動向を見ながら役員会や次回の例会にて検討を行うこととする。

第 32 回 例会

1) 講義

「Assistive Technology による MCI・認知症のある人への支援」

安田 清 先生 ; 齋賀医院、京都府立医科大学精神学教室、
神戸大学工学研究科

- 認知症学会にて発表した内容。
- 未だ世間では認知症の予防や改善に重きをおいた説が独り歩きしている。
- 認知症の一番の支援は中核症状としての記憶障害（情報障害）と考える。
- 視力障害には眼鏡、歩行障害には杖や車いすと同様に記憶障害にはテクノロジーをという考え方。
- それらをローテクノロジー、ミドルテクノロジー、ハイテクノロジーに分けて紹介する。
- 今後、発展途上国にて認知症も増加すると感じると、ローテクノロジーは故障知らずの側面があるため有効であろうと思われる。

2) 閉会の挨拶

市原市認知症対策連絡協議会 副会長 永野伸一 歯科医師（永野歯科医院）